

自由の意味とは？ 沼田氏に聞く！

2017年に第57回芥川賞を受賞した、沼田真祐氏。中上初、岩手県在住の芥川賞作家として県全体が盛り上がりを見せたことも記憶に新しい。そんな新進作家の若手作家沼田真祐氏にインタビューを行った。

まずはお馴染みのラフスタイルでリュックと共に登場。彼曰く「ちょっとした格好付け、メディアでは主に暗いイメージが刷られるけどこれが親しむやすい雰囲気も。」

おどろくその理由は生活リズム。執筆は太陽と共に。家族への配慮も。

先月、本校で悲惨な事件が起きた。トイレのトイレットペーパーの芯が抜かれるというものが、全校で真剣に話し合ったことも、記憶に新しい。

しかし、この事件は終わっていない。その後、誰か何の為に、その真相は未だ謎だ。

「大袈裟だけれども、芝居に子供だけで行くとかは……」

彼は我々中学生にも、「良い意味でもっと反抗すべき」と。

とXセッションを送る。何事も主体的に楽しんで方が学びは大きい。しかし、こんな一言も……。

「何か創作を始めるというめたら、毎日欠かさず続けること」と。

どう、自由には必然、責任が。成長に継続性や責任感是不可欠。執筆のみなならず、勉強や部活等、我々の生活にも言えることだ。第一、スポーツルールがあるように適度に縛りがめ合う場で、足を引張る場ではない。

それに、その器用さも見つけた課題は異なる時中の発表に不可欠な。貴方も一度、重じている作家に与えられる。この二つは、筆者基準が異なるため一方が格上、というのではない。たばこ茶ある賞である事は確かだ。出典：日本文化研究学会

あつた方が楽しい。ちなみ沼田氏は、作中の人物にも現実と同様に個々の権利を当てはめ、執筆するとうた。我々にとって「自由に住き」というのは突に魅力的な言葉だ。しかし、それは、同時に責任や困難に向き合うこと。そこまで見通し挑むことが重要だ。



芥川賞とは？

よく耳にするが詳しくは知らない芥川賞。これは純文学を重視し、純文学の新人たちと与えられる賞である。ちなみ沼田氏は前年受賞している作家に与えられる。この二つは、筆者基準が異なるため一方が格上、というのではない。たばこ茶ある賞である事は確かだ。出典：日本文化研究学会

会長が語る文化祭

臨時落着いてきました。他にも今年度初めての試みの生徒会マスコットを活用するなど、多くの新たな活動が見られたように思います。

Q. どのような文化祭にしたいですか？

A. 今年の文化祭テーマは「素へかぶせ」です。一人一人が互いの個性や長所を響かせ合い、周りに広がっていく。全校生徒が一つのオーケストラの一員であるような一体感やいい緊張感を帯びて、臨める事ができるような文化祭にしたいです。

平成最後の文化祭を運営できるように感謝しつつ、附中の歴史に残る印象深い4日間になりたいと思います。

